

令和4年度

まちづくり懇談会実施結果報告書

(御幸ヶ原地区)

宇都宮市総合政策部広報広聴課

**令和4年度 第6回  
まちづくり懇談会《御幸ヶ原地区》実施結果報告書**

この実施結果報告書は、まちづくり懇談会《御幸ヶ原地区》における発言の要旨をまとめたものです。

- 1 開催日時 令和4年10月18日（火）午後6時30分～午後8時00分
- 2 開催場所 御幸が原小学校 体育館
- 3 参加者数 47人（市出席者除く）
- 4 市出席者 市長，総合政策部長，広報官，地域まちづくり担当副参事，東市民活動センター所長，道路建設課長，広報広聴課長

5 懇談内容

- (1) 地域代表あいさつ 御幸ヶ原まちづくり協議会 会長
- (2) 市長あいさつ
- (3) 地域代表意見

No.	テ ー マ	所管課
1	県営・市営住宅の自治会組織の在り方について	住宅政策課 みんなでまちづくり課
2	御幸ヶ原・岡本エリア路線バス再編の復元及び 済生会宇都宮病院経由の路線バスの新設について	交通政策課

(4) 自由討議

No.	要 望	所管課
1	道路側溝について	道路保全課
2	住居表示について	市民課 高齢福祉課
3	道路について	道路保全課
4	子育てについて	子ども未来課
5	居住誘導の施策について	NCC推進課
6	地域内交通，市の情報発信力について	交通政策課

(5) 来賓あいさつ

地区居住市議会議員 舟本 肇 氏

(6) 市長謝辞

## ■地域代表意見 1 (要旨)

テーマ	県営・市営住宅の自治会組織の在り方について
-----	-----------------------

宇都宮市として、県営や市営住宅の自治会組織をどのように考えられているのかお伺いする。

上野町南自治会は県営住宅全13棟で組織され、御幸ヶ原地区の1自治会として、卒業時や学校行事などへの参加協力、また自治会内では行事を通して、住民同士の意思疎通を図ってきた。以前は体育祭などで優勝するなど、世代間の交流もあり活気もあった。

自治会として活動する事で、住民の困り事が「見える化」され、それぞれの部署へ繋ぐことが出来る。また、各棟の電気料などの支払いも、まとめることで個々人の負担も軽減される。自治会の組織は必要であり、住民同士をつなぐ基盤であると認識している。

しかしながら、現在220世帯、その大半は高齢者世帯である。さらに、入居基準には収入限度額もあり、新規入居者がかなり少なくなっている。少子高齢化で住宅を求める人の割合も減ってきているのは分かるが、このままの状態では、2~3年後には、自治会組織を維持していくこともできなくなる。自治会は、各世代がいることで、次世代へとバトンを渡していけるものと考えている。

そこで、宇都宮市が把握している市営住宅の自治会組織は、どのように運営されているのか、現況を聞かせてほしい。そして、うまくいっている自治会の例なども踏まえて、我々ができる対策などがあれば、ぜひ参考にさせていただきたい。

また、県営・市営と違いはあるが、同じ宇都宮市の住民として、自治会組織存続のため、入居基準の見直しを含め、全世代が入居できるよう、県住宅公社にも働きかけていただけよう願う。

毎年困っているので、よろしく願う

回答	所管課：住宅政策課，みんなでまちづくり課
----	----------------------

### 【市長】

御幸ヶ原地区においては、新型コロナウイルス感染症の状況下にあっても、自治会活動に熱心に取り組んでいただいている。特に、公営住宅における皆様においては、共用施設の維持管理など、良好な住環境の確保に資する活動にも取り組んでいただいている。大変心強く感じているとともに、感謝を申し上げます。

自治会は地域に住む人々が協力し合い、親睦と交流を通じて、連帯感の醸成を図る地域コミュニティを支える基盤であり、本市のまちづくりのかけがえのないパートナーとして、防犯・防災や環境美化をはじめ、共に支え合う、安全

で安心な地域づくりのための重要な役割を担っていただいていると認識している。

そのような中、市営住宅の自治会については、市営住宅に入居している世帯単独で組織している自治会が多く、このような団地における自治会加入率は、令和4年4月現在では約90%となっている。市全体の加入率約64%に比べ高い状況にあり、入居者の皆様同士が協力し合いながら、敷地内の除草や清掃活動など活発に運営していただいているところである。

市営住宅における自治会の運営の好事例であるが、役員経験者などが継続して自治会活動を支援することで、安定的な運営に繋がっていることや、規模が大きい団地では、清掃活動などを棟単位で実施することにより効率的な運営が図られているなど、安心して快適に生活できるよう、入居者の皆様の主体的な取組などが挙げられる。

また、市全体においても、自治会の効率的な運営や加入促進に取り組んでおり、自治会主体の魅力ある自治会づくりの取組を支援するための「魅力ある自治会づくり支援事業補助金」を活用した好事例として、自治会長などの負担軽減を図るため、アプリを使った、回覧板の電子化に取り組んでいただいている自治会をはじめ、高齢者の退会防止のため、地域住民が自治会独自のパンフレットを活用して高齢者が抱える困りごとや悩みごとへの相談支援を行っている自治会などがあり、これらの取組事例を広く他の地域に周知しているところである。御幸ヶ原地区においても、実情に合った取組みを検討する際には、市で支援、協力をさせていただくので、東市民活動センターまでご相談していただきたい。

なお、県営住宅に幅広い世帯が入居出来るような入居基準の見直しについてであるが、県営住宅を所管する栃木県住宅課に情報提供を行うとともに、入居者の皆様が公営住宅における自治会組織の円滑な運営に繋がるよう、県と情報交換を行っていく。

今後とも、御幸ヶ原地区が安全・安心に快適な生活を送ることができるよう、自治会の活性化に向け、市としてしっかりと支援をさせていただく。

## ■地域代表意見 2 (要旨)

テーマ	御幸ヶ原・岡本エリア路線バス再編の復元及び済生会宇都宮病院経由の路線バスの新設について
-----	---

路線バスを利用している一市民として、2点提言をさせていただきます。

1点目は、昨年10月1日から、御幸ヶ原・岡本エリアで路線バスが再編された。突然回覧板で知らされ、御幸ヶ原地区の市民は寝耳に水だった。

それまで、東武宇都宮駅西口発着、JR宇都宮駅西口経由、JR岡本駅行きだったので、運行本数は少なかったが、便利に利用していた。しかし、再編後はJR宇都宮駅東口発着、JR岡本駅西口行きになったため、不便で利用しにくいので、元のルートに戻してほしい。

主な理由の1点目は、利便性の低下である。利用者は、目的地に乗り換えなしに行くことを望んでいる。この再編で増便になったが、JR宇都宮駅東口発着では、コンコースを歩いて、西口のバスターミナルで乗り継ぐのは不便で、市役所、東武デパート（東武宇都宮百貨店）、オリオン通りなどに出かける頻度は大幅に減り、中心商店街の活性化にもならないと思っている。

次に、時間のロスである。再編前は、スーパーオオタニ御幸ヶ原店前から県庁前までは約17分だったが、再編後は約1.5倍から2倍になった。また、料金も増額になり、スーパーオオタニ御幸ヶ原店前から県庁前までは370円だったが、再編後は、同じ所から乗り、JR宇都宮駅東口まで310円、きぶなに乗ると170円、合計で480円。110円の増額になった。

2点目は、済生会宇都宮病院経由の路線バスの新設についてである。路線バスの新設は、慢性的な運転手不足が課題だと承知している。そこで、「自動運転バス」の導入を早急に検討していただきたい。茨城県境町では、2020年11月から「自動運転バス」の運行を開始している。宇都宮市でも積極的に「自動運転バス」を導入して、不便になった御幸ヶ原地区等に、優先的に路線バスが新設されることを望んでいる。

ルートについては、御幸ヶ原連合自治会が主体となって、バス会社と決めてほしい。

参考までに、2つの案を考えた。1つ目の案は、東武宇都宮駅西口発JR宇都宮駅西口、済生会宇都宮病院を経由して、御幸ヶ原町、JR岡本駅行き。もう1つは、JR岡本駅西口から御幸ヶ原町を通り、済生会宇都宮病院に行き、そこから折り返して御幸ヶ原町、JR岡本駅である。JR岡本駅西口から御幸ヶ原通りまでは、多くの御幸ヶ原地区市民が利用できるようなルートを検討し、御幸ヶ原通を南下し、五差路を西に岩曾通りを行き、白沢街道を横断すると、のぞわ特別支援学校がある。新幹線の先に、北側には豊郷地区市民センターがある。このコースに数カ所の停留所があれば、通院の市民だけでなく、市役所に行かなくても、豊郷地区市民センターで事足りると考えている。

以上、2点を提言させていただく。

<b>回 答</b>	<b>所管課：交通政策課</b>
------------	------------------

**【市長】**

公共交通を使ったネットワーク型コンパクトシティを作っていくというまちづくりのためには、JR線、東武線、LRT、バス、そして地域内交通、様々な公共交通が必要になってくる。どれ一つを省いてもできないので、そのような取組をネットワーク型コンパクトシティ、スーパースマートシティとして作っていくところである。

1点目の「御幸ヶ原・岡本エリアでの路線バスの再編」であるが、バス事業者から利用者数の少ない路線を統廃合して、岡本方面とJR宇都宮駅間の運行本数を増やすとともに、駅東口発着とし、利用者の多いJR宇都宮駅への定時性・速達性を高める見直しであり、その実施に先立って、昨年8月に、自治会代表者等に再編に関する内容の回覧配布をお願いしたと伺っている。

再編後の路線については、バス利用者数が増加傾向にあることから、現在のバス利用者の利便性を考慮すると、元のルートに戻すことは困難であると、バス事業者を確認をしている。

一方、当該路線の乗り継ぎに伴う運賃負担の増加であるが、引き続き、「乗継券」の発行などについて、バス事業者に働きかけを行うとともに、本市が導入している、「日中バス1乗車あたり400円の上限運賃制度」や、「路線バスと地域内交通との乗継割引制度」などの運賃負担軽減策についてさらなる拡充を図るなど、今後も乗り継ぎ利便性の確保に取り組んでいく。

次に、2点目の「済生会宇都宮病院経由の路線バスの新設」についてであるが、バス路線の再編にあたっては、バス事業者の保有する運転手や車両などの限られた経営資源を、LRTの導入と合わせて、郊外部等の路線へ振り分ける事で実施することが基本になると考えている。ご提案の「御幸ヶ原地区と済生会宇都宮病院を結ぶ路線」を含め、地域拠点と都市拠点を結ぶだけでなく、高次の機能を備えた医療機関を経由するなど、ネットワーク型コンパクトシティの形成に資する重要な路線については、駅西側LRT導入前であっても、市が主体的にバス事業者との協議を進めてまいりたいと考えている。

そのため、今後は、今年8月に整備区間を公表した駅西側LRT事業の進捗と併せた市内全域バス路線の再編の検討を進める中で、当該路線については、実現に向けた方向性がまとまった段階などで、適宜、地域の皆様と意見交換をしていきたい。

また、「自動運転バスの導入」であるが、茨城県境町で運行している自動運転バスは、最高速度が20キロであることや、緊急時対応のオペレーターが同乗する必要があることなど、つまりは完全自動運転ではないということであり、同様の内容で直ちに市内へ導入することは難しいものと考えているが、現在、

県内において、県が中心となって、自動運転バスの本格運行を目指した「栃木県ABCプロジェクト」に取り組んでいる状況である。本市としても、今後の動向の把握に努めていきたい。

また、ご提案のあったルートの実現に向けて、地域が主体となって、地域内交通の確保をご検討いただく場合には、本市において、市街地における地域内交通の確保についてのガイドラインを作成しており、導入に向けた検討の支援を行っている。ぜひ、ご相談いただきたい。

今後は、ご提案頂いた自動運転バスなど、交通に関する新しい技術やシステムの活用も検討しながら、引き続き、LRTを基軸とした公共交通ネットワークの形成を進めていくとともに、LRTとの連携に配慮したバス・まち・施設等の充実や交通ICカード「totra」を活用したLRT・バス・地域内交通間の乗継割引制度の導入など、乗り継ぎ利便性の向上に取り組み、その後はさらに、市内のどこへでもより自由で気軽に移動できるよう、「市内のどこから乗っても、どこまで行っても500円以内」の利用環境を目指すなど、誰もが快適に移動出来る公共交通ネットワークの構築に取り組んでいく。

**再質問**

**御幸ヶ原・岡本エリア路線バス再編の復元及び済生会宇都宮病院経由の路線バスの新設について**

バスターミナルがJR宇都宮駅西口にあるので、JR宇都宮駅西口に行きたいと考える。例えば、がんセンターに行くという方が駅東口で降りて、そこからコンコースを歩いて駅西口に行くというのは、非常に大変である。半分でも良いから、駅西口経由のバスを考えてほしい。私事だが、10時からの市議会を傍聴しに市役所に行くのに、以前は9時27分くらいのバスに乗れば間に合ったのだが、今は9時前のバスに乗って、9時半のきぶなに乗らないと、行くことができない。このように、非常に不便になったのである。もう一度、西口経由のバスを考えてほしいと願っている。

**回答**

**所管課：交通政策課**

**【市長】**

公共交通は、その都度成長していかななくてはならないものであり、御幸ヶ原地区だけではなく他の地区においても、路線バスをこうした方が良いなど、いろいろなアイデアがあると思うので、今回いただいたご意見は、利用者の声として、バス会社にしっかりと伝えていきたい。

## ■自由討議（要旨）

### 発言 1 道路側溝について

日頃、市長をはじめ、市の執行部の方々及び各担当の部署の係の方々が一丸となって、我が御幸ヶ原町も住によいまちにと、まちづくりに努力されていることに感謝申し上げます。

さて、今回、以前よりお願いしていた雨水問題で、第9児童公園北西に雨水浸透装置を設置していただき、大きく改善された。

しかし、その後住宅が増え、空き地もなくなった。住宅はまだ増える予定である。私なりに調査したところ、市道545号線の通称御幸ヶ原通りであるが、そのファミリーマートから線路や4号線に繋がる市道1390号線を境に、栄町方面から流れてくる雨水の量も多く、それを受けるU字溝もないため、市道1390号線の南側に流れてくる。また、以前、第9児童公園北西に設置していただいた雨水浸透装置も、設置後10数年が経ち目詰まりしてきたのか、最近水の引き具合が悪くなってきたように思う。

現在、市道1390号線にある側溝は、ミユキ建設さんのところの十字路から約120メートル設置されている。また、道路の南側は、十字路から床屋さんまで約100メートル設置されているが、開発業者ごとに側溝を造ったので、側溝が繋がっていない状況である。また床屋さんからエクセレント不動産会社さんまでの間に、約10カ所の集水柵があるが、水が引きにくくなっているように思う。

そこで対策として、現在ある市道1390号線の北側の側溝を、線路側に約50メートル延長してほしい。同じく南側の側溝を新設してほしい。また、繋がっていない部分の側溝を繋げてほしい。

現在、第9児童公園北西に設置してある雨水浸透装置の目詰まりの清掃と、周辺の側溝の清掃をお願いする。これは市道3623号線である。

また、第9児童公園北西にあるような浸透装置を、他の場所にも増設してほしい。今ある場所から、また南側の方に増やしていただければ有難い。

要望は以上であるが、今、宇都宮市として全国から注目されているLRT開通に向けて大変だろうと思うが、対応をお願いします。

### 回答 所管課：道路保全課

#### 【市長】

御幸ヶ原地区の皆様におかれては、特に溢水等で大変ご苦勞をされてきたことと思う。

市道1390号線の東西道路は、道路側溝が設置されている区間と、一定間

隔に集水柵が設置されている区間があり、道路排水を行っているが、近年の豪雨時には溢水により、地域住民の皆様にご不便をお掛けしており、お詫びを申し上げます。

この東西道路においては、表面上は道路側溝や集水柵が断続的であるため、個々に排水先が分かれているように見えるが、それぞれ道路に埋設している排水管に接続をしている。

具体的には、床屋さんから線路側への道路排水については、集水柵設置区間であり、その排水先については道路に埋設している排水管に接続し、道路排水を行っている。また、東西道路南側の道路側溝同士を繋ぐことについても、道路に埋設している排水管に接続しており、側溝同士を接続することと同程度の機能を有している状況になっている。

しかし、集水柵の水が引きにくくなっているとのこと指摘もあるので、東西道路だけでなく、その排水先の管のつまりがないか、また道路の表面水が道路側溝や一定間隔に設置している集水柵へ適切に流れているか流入しているかなど、周辺の清掃や調査を行って、確認をさせていただきたい。

また、第9児童公園の北西に設置してある雨水浸透装置についても、水の引き具合が悪くなってきたとのこと指摘であるので、現地確認を行った。今月中速やかに浸透装置の清掃を行っていく。

この周辺は、高低差のある地形が特徴的であるので、地域住民の方に伺いながら溢水の状況等を把握するため、今後早急に現地調査を実施させていただき、浸透施設の増設も含め、雨水を排水するための効果が高い対策を講じることができるように取り組んでいく。

## 発言 2 住居表示について

まちづくりをする上で、住居表示は、地域活性化させるためにも有効な手段であると思う。

御幸ヶ原町では、北自治会から南自治会まで6自治会ある。イベントの一つに敬老会があるが、名簿作成やイベントの企画の際に、住所が飛んでいて分かりづらい。12△番地の次が14○番地となっていたり、さらに飛んでいたりする状態である。地域住民の生活においても、郵便や宅配などの業者や御幸ヶ原町にある企業においても、住居表示が実施されることによって、スムーズな営業が行われるのではないかと考える。

また、これが一番大事なことかと思うが、緊急時に介護や支援をする際に、即座に判断しづらいということもあり、住居表示をお願いしたい。

御幸ヶ原小学校の周りは御幸ヶ原北自治会であるが、例えば、御幸ヶ原1丁目何番何号という形にするなど、住居表示をお願いしたい。

## 回答 所管課：市民課，高齢福祉課

### 【市長】

自治会活動をはじめ、敬老会などを通じた地域まちづくりには、大変ご苦労があるかと思う。敬老会は、ほぼどの地区においても2年間実施できていない状況であり、今年3年ぶりに実施できるかどうか頑張っていたところであるが、ほとんどが開催中止となり、また体育祭もなかなか開催に踏み切れないというのが実情ではないかと思っている。

住居表示についてであるが、「住居表示に関する法律」等に基づいて実施している。具体的な要件として、関係する自治会など地域の団体等からご要望をいただくことに加えて、例えば「道路で区切られた境界で、分かりやすい街区を設定できること」や「空き地が少ないなど、これ以上宅地開発等が見込まれないこと」などの要件を満たした場合に住居表示を実施している。近年の事例では、土地区画整理事業や大型の宅地開発に伴って、街区を設定するための道路等が整備された地域を対象に行っている。

ご要望いただいた御幸ヶ原地区における住居表示であるが、現時点では、宅地開発等が見込まれる地域であることなどにより、これらの要件を満たしていない状況であるので難しい。ご理解をいただきたい。

なお、敬老会の開催にあたっては、地区社会福祉協議会をはじめ、地域の皆様に大変なご協力をいただいております。心から感謝を申し上げます。

敬老会については、招待する75歳以上の方の名簿確認等到大変なご負担をお掛けしているところであるが、地域の皆様の負担が軽減されるよう、令和3年度より、市が各地区の社会福祉協議会に提供している名簿を電子データによ

りお配りし、敬老会の新規対象者の把握のほか、町名や番地での絞り込み検索など、様々な活用がなされているところである。御幸ヶ原地区の状況をお伺いして、電子データの活用などについてご相談に応じてまいりたいと思うので、ぜひ高齢福祉課で協力をさせていただきたい。

<b>再質問</b>	<b>住居表示について</b>
------------	-----------------

今後この地区を有意義にしていくためにも、住居表示は本当に無理なのか。法律が1962年にできたそうだが、東京などでは変えるところが少ないからできるのかもしれないが、検討できないのか。

<b>回答</b>	<b>所管課：市民課</b>
-----------	----------------

**【市長】**

飛び地が出てきてしまうのは、昔に分筆や合筆を進めてきたことにより、数字が飛び地となってしまったものであり、こちらについては仕方がないことである。

住居表示を実施する場合、番号の表示は、時計回りで1から行うことになっている。これは法律等で決まっていることであるが、例えば28番で終わっている街区の中に空き地がある場合、そこで宅地開発などがあると、28の次の29から番号が追加されることになり、また飛び地となってしまう。このため、空き地等がない所や、道路が新しく出来ないなど、あらかじめ分かっている所でないと、なかなか住居表示ができない状況である。複雑化させないために、法律に基づき、宇都宮市住居表示整備実施基準で定めているものである。

ご苦労されている敬老会についても、やり方を工夫して、なるべく地元の方にご負担掛けないようにしていくので、お気軽にご相談いただきたい。

### 発言 3 道路について

第2板戸踏切のところから、コンビニのローソン、泉屋の前を通る東西の道路は、以前は水が溢れていたが、雨水幹線整備をしていただき解消された。

しかし、それが直ったところから、道路に凸凹が出来たように思う。トラック等の大型車両が通ると飛び跳ねたような大きな音がするようになったので、改善をお願いする。

### 回答 所管課：道路保全課

#### 【市長】

御幸ヶ原地区の皆様から、これまでのまちづくり懇談会でも出していただいたご要望であったと思う。泉屋さんの前が一番ひどい状態であり、皆様においては大変ご苦勞をされたと思う。

市道544号線であるが、浸水被害の解消を図るために、平成15年から平成18年の間に雨水幹線整備を行った。その後すぐに、整備後の舗装も行ったところである。

近年、この道路の舗装の劣化を確認しており、令和3年度より順次、御幸ヶ原公民館交差点から東側に向かって、第2板戸踏切までの区間の舗装修繕を進めているところである。令和3年度においては、御幸ヶ原公民館から泉屋さん前までの区間が一旦終了した。今後、さらに進めていくところだが、今年度については、振動の原因の一つと考えられるコンビニエンスストア東側にある集水桝の移設を行っていく。おそらく、そこにトラック等の車のタイヤが直接当たるので、音がするものと思うので、その修繕を行っていく。

整備完了までの間、地域住民の皆様にはご不便をお掛けするが、令和6年度の完了に向けて、着実に整備を進めているのでご理解をいただきたい。

## 発言 4 子育てについて

子供たちの遊び場についてのお願いが2つある。

1つ目は、雨天時に体を思い切り使って遊べる場所を作っていただきたいということである。

市の施設である「ゆうあいひろば」では、幼児や乳児が遊べるようなところはあるが、小さなお子さんがいる家庭だけではなく、児童や幼児の兄弟がいる家庭もあるので、そういった子たちが一緒に遊べるような施設を作っていただければと思っている。

宇都宮市の南部や壬生町には、栃木県こども総合科学館やわんぱく広場のようなインドアの遊べるスペースはあるが、東部や北部にはないので、そういう施設があると、アクセスも楽で子供たちも行きやすいのではないかと思う。場所としては、東図書館の近くや買い物や病院アクセスも良い済生会付近、きれいに整備された水上公園の一角などに、そのような施設ができると、兄弟がいる家庭も安心して遊べるのではないかと思う。

栃木県内には、無料で駐車料金もかからない施設がたくさんあるので、天気が良いときは行けるが、雨の日になると、どうしても行けないという皆さんの意見があった。利用料金は多少かかっても、駐車場代がかからないようなところに施設を作っていただけると有難い。

また、この近辺にはトライ東があるが、そこに併設された児童館のような施設を、御幸ヶ原地区にも作っていただきたい。例えば、大きな公園の一角や、小学校の体育館の横などにあれば、小さなお子さんは雨の日にどこも行けずに家の中で過ごしていることがあるので、そういう場所があると助かると思う。

2つ目のお願いは、公園の遊具についてである。トライ東の公園を、子ども達は「くるくる公園」と呼び、そこに併設した児童館で遊んだり、外では、「くるくる公園」の言われとなっているくるくるした滑り台で遊んだりしていた。しかし、最近では、メンテナンスや老朽化の理由からなのか、そういった遊具が撤去されて、子供たちがワクワクするような遊具が減ってしまったと思うので、そのような子供たちの興味を引く遊具を、また作っていただきたい。

## 回答 所管課：子ども未来課

### 【市長】

児童公園等は、中核市の中でトップクラスの数が宇都宮市は設置をされているところであるが、雨の日に子どもが遊べるところが少ないというご指摘は、以前からいただいており、約10年前に、うつのみや表参道スクエアビルの6階に「ゆうあいひろば」をオープンさせたところである。しかし、その遊具も、今のお子さんや時代には合わなかったり、古くなってきたりしたため、昨年か

ら今年4月にかけて、全面リニューアルした。子どもの年齢や身体的・精神的成長などに応じた遊具や、最近のデジタル技術等を活用した遊具の導入を図ったところである。

具体的には、小学生が楽しめる全長25メートルの「大型アスレチック」や、地元プロスポーツチームの栃木SC、ブレックス、ブリッツェンといった方々に協力をいただき、「バスケットボール・サッカー体験ゲーム」、乳幼児が安心して遊べる乳幼児エリアなど、それぞれの年代層に合わせて、遊具を工夫して配置をさせていただいた。

また、本やマンガ、テーブルゲームが利用でき、Wi-Fiも整えた「青少年エリア」や、飲食ができるカフェエリアも設けている。併せて、ぜひご利用いただきたい。

また、その他の乳幼児や小学生を対象とした施設として、御幸ヶ原地区周辺の河内地区に、無料の駐車場を備えた岡本児童館、白沢児童館、田原児童館がある。保育士などの児童厚生員が季節行事や本の読み聞かせ、工作などの提供をしている。特に田原児童館では、ホールを活用したバドミントンやトランポリンなど、身体を動かす遊びも提供しているので、ぜひご利用をいただきたい。

これからも、子供が伸び伸びと成長できる、そして大人になっても人間力の高いお子さんを、学校教育の場でしっかりと考えて、市として子どもに優しいまちづくりを進めてまいりたい。

<b>再質問</b>	<b>子育てについて</b>
------------	----------------

こども総合科学館のような大きな施設が、北部にできるというのは難かしいのか。

<b>回答</b>	<b>所管課：子ども未来課</b>
-----------	-------------------

**【市長】**

こども総合科学館は、科学分野の施設として県が設置しているものであるが、子どもの体を動かして遊ぶこと、頭を使ってもらおうといった要素もあると思う。施設の内容ではなく、こども総合科学館のような規模の施設をという提案もあるかもしれないが、今のところはリニューアルした「ゆうあいひろば」を利用させていただきたいと思う。

その他に、北西部にはなかった新たな体育館を国本地区に作ってまいりたいと考えているので、雨の日にはそのような施設を、ぜひご活用いただきたい。

<b>発言 5</b>	<b>居住誘導の施策について</b>
-------------	--------------------

宇都宮市の施策として、コンパクトシティ実現のために居住誘導を行っていくと伺っている。居住誘導は、いつ頃から実施されたのか。また、計画内容と実績について伺いたい。

<b>回答</b>	<b>所管課：NCC推進課</b>
-----------	-------------------

**【市長】**

公共交通を使いながら安心して暮らし続けられるまちづくりを進めるため、国の法令に基づく「立地適正化計画」を平成31年に策定した。

この計画の中で、中心部や身近な地域拠点など公共交通の利便性が高い場所に居住誘導区域を定め、居住を誘導することで、効率的な都市経営にもつながるメリハリある都市の形成に取り組んでいる。

<b>再質問</b>	<b>居住誘導の施策について</b>
------------	--------------------

実際の計画に対して、実績はどのような状況か。

<b>回答</b>	<b>所管課：NCC推進課</b>
-----------	-------------------

**【市長】**

居住誘導策として講じているマイホーム取得補助などを多くの方に活用いただくなど実績は上がっており、居住誘導につながっている。

<b>発言 6</b>	<b>地域内交通，市の情報発信力について</b>
-------------	--------------------------

地域内交通についてであるが、市長からの説明で、LRT・東武鉄道・JRが背骨となって小骨のところにバスが入り、その間に地域のデマンド交通を行っていくという説明があった。私の父は75歳を過ぎ後期高齢者であるが、団塊世代の親が後期高齢者となり、2025年以降は、さらに後期高齢者が増えるという中で、デマンド交通を、どのように、いつまでに、この地域に作っていくのかについて伺いたい。これは、御幸ヶ原地区だけではなく、満美穴など他の地域でも同様だと思う。

また、バス路線再編の周知に関して、私達市民には伝わっていない現状がある。だから皆が困ってしまったのである。これは、市の発信力であり、いわゆ

る広報の部分だと思う。ウェブやアプリを使った自治会活動もあるとのことなので、自治会に入って自治会活動をしっかりやっていくためにも、ぜひそういった指導もお願いしたい。

<b>回 答</b>	<b>所管課：交通政策課</b>
------------	------------------

**【市長】**

1つ目のご質問である、いつまでに地域内交通を行うのかという質問であるが、地域内交通はネットワーク型コンパクトシティの大切な一つの装置であるので、まずは公共交通が脆弱な公共交通の空白地域である、地区市民センターなどがある外周部から作り始めたところである。どのように作っていったかという、先ほども説明させていただいたが、民間事業者のため、利益が出れば続けていき、本数を増やすこともあるが、利用がなく赤字が続くと、最終的にはやめてしまうことになる。そのために公共交通はどこでも苦勞している。そのような中で、市としては、まずは自分達で必要か否かを考えていただき、そして皆が集まって必要だとなれば、アンケート調査を全戸に行っていただき、皆の総意が整った場合には協議会を設けて、どのような公共交通を作っていくのか、デマンドタクシーなのか、定時定路で行っていくのか、あるいは乗り物もセダン型の車にするのかワゴン車にするのかなど、概ね1年くらいかけて協議をしていただく。我々もオブザーバーでサポートさせていただきお手伝いするが、作る数も乗る数も、料金も自分達で決めていただいて進めていく。市の方でも具体的な支援をさせていただくが、そのような段階を踏んでスタートとなる。御幸ヶ原地区のように、市街地の中でもこれを進めていこうということになっている。石井地区がまず皮切りに進めているが、これから勉強会が始まっていくところであるので、皆さんの総意で進めていけば、すべての地域で完了となるが、いつまでにとすることは、行政からも言えないことである。

2つ目の質問の、路線が変更になった際の周知が十分にされていなかったということについてであるが、事業者が主体で行っており、市としては、地元での事業者の説明会のお手伝いをさせていただいたところである。その後、事業者がしっかりと周知やPRをしなければいけないことだが、行政としても、事業者がどのような考えのもとで路線を変更するのかなどについて、今後は公共的な役割として、皆様に分かっていただけのように、市ホームページ等での周知を進めてまいりたい。